# 日英教育研究会

# ニューズレター

第10 巻 第1号

(通算19号)

2025年7月15日

日英教育研究会

東京

## 目 次

まえがき 上杉孝實 1

古希記念論文

日英を照らし合わせて教員養成を考えてきて

-気づいたこと、見え方が変わったこと、見落としていたこと- 髙野和子 3

論考

ダンス教育の現場から 日本と海外 Kyoko Murakami Suter 14

随想

学校教育と社会教育の関係における教員の役割 上杉孝實 26

本棚一図書紹介

Reflections of Japanese Education System in Britain: A Modern Utopia?

1858-1914 (Routledge 2024 年刊) 平岡麻里 35

Abstracts 41

日英教育研究会会議記録 43

編集後記 67

このところ教員を志望する学生の減少が話題となり、教員不足から退職教員を教壇に招く学校も少なくない。その背景として、教員の過剰な勤務状況があり、国の政策では、働き方改革として負担軽減や給与改定などが打ち出されている。それらもさることながら、教職の魅力の減退に目を向けなければならない。子どもをはぐくむことへの手ごたえ、それ通じて自らも成長することの実感、そのための創意工夫が保障される環境の設定などがどうなっているのであろうか。フラットな関係であるべき教場に、種々の職階が導入され、官僚制の仕組みが増す中で、自由な発想での教育がなされ難くなっている。筆者の知人である米国の研究者が日本の学校における職員室の長所として挙げた、同僚と語り合うことによって教育上の課題解決がなされるといったことが、どれだけ行われているのであろうか。書類づくりに追われ、子どもと向き合う時間が削られ、教材研究もままならぬ状況も見られる。財政上の理由から正規教員の採用を抑え、期限付の不安定雇用の教員を多くしてきた政策も、教職の魅力を失わせてきた。

これらの状況の改善が急務であるが、教員養成のあり方についても検討課題が多々ある。 実践力を身につけるとのことで、実務教育に重点が置かれる傾向がある。イギリスでも大 学での学びから学校ベースでの実習体験に重点の移行が見られる。教員養成が大学で行わ れるようになったことの意味は何であったのかを省みながら、教師教育における教養教育 や専門教育の充実を図ることが促されている。教員採用選考においても、大学関係者が利 害関係にあることから、教育委員会の指導主事を中心に試験問題の作成が行われるのが通 常で、どこまで大学における教育を意識しての問題になっているか、とくに学識に裏付け られた幅広い教養を測っているかが問われるところであり、吟味の必要がある。

このような時機に、長年日英の教員養成の研究にあたられ、日本教師教育学会長も務められて、この3月明治大学で定年を迎えられた高野和子会員に、日英の教師教育の比較研究での気づきや思いを寄稿いただいた。数々の業績をあげられ、定年を迎えられたことをお祝いするとともに、今日の日本の教師教育に大きな示唆を得るためである。履歴・業績については、鈴木愼一会員に記述いただいた。論文で示さている、イギリスでのcollege of educationから大学における教師教育への変遷の中で、アカデミックな質保証とプロ

\*京都大学名誉教授

フェッショナルな質保証とがどのようになされるべきかといった課題は、日本の大学における教師教育でも共通の課題であるとともに、日本での学卒後教育としての教師教育の可能性がどれだけあるかが問われるところでもある。

近代にあっては、教育と言えば学校が連想され、近年では学校化社会の問題が指摘されるようになっているが、日本での芸術教育にあっては、長年個人教授が中心になったものが少なくなかった。とくに日本の伝統的な芸術に関してはその傾向があった。東京音楽学校(東京芸術大学の前身の一つ)にあっても、西洋音楽が中心であり、昭和初期に乗杉嘉寿が校長になって和楽を取り入れたと言われる。もっとも、西洋から入ってきた芸術でも、個人教授が有力であり、たとえ学校の中にあっても、個人的伝授の要素が強い面がある。村上恭子さんの論稿は、イギリスのロイヤルバレエ団などでのバレエピアニストとしての経験に基づきながら、バレエスクールの紹介をし、バレエ教育のありかたを示唆するもので、重要な考察である。幅広い教養に支えられた芸術を多くの人のものにする上での学校の持つ意味の再確認が求められている。

日本では、青少年教育と成人教育の対比のほかに、学校教育と社会教育の区分があり、 教員はもっぱら青少年対象の学校教育を担う者として位置づいてきた。しかし、実際に は、社会教育における青少年教育にも関与し、成人教育にも当たることがまれではなかっ た。戦後は社会教育職員の養成も進んだが、近年は財政困難な自治体の増加と共に、「規 制緩和」の名のもとに、教育の公的保障が弱まるにつれて、社会教育職員の減少が顕著に なっている。大学や夜間中学校など学校での成人の学びが多くなり、学校外での子どもの 文化・スポーツ活動の保障が課題となっている今日、安易に学校教員に社会教育の任を負 わせるのでなく、社会教育職員の増加を図りながら、学校教育と社会教育の連携を密にす ることの必要性が増している。上杉のエッセイはこのことに関連してのものである。

日本の教育へのイギリスの影響については、多くの論考があるが、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて日本の教育をイギリスではどのように見ていたかについての考察は、多くない。その点で平岡麻里さんの著された「英国における日本の教育制度の考察」はきわめて貴重であり、その一端は『日英教育誌』で示されるが、ここでは自著の紹介をしていただいた。最近はイギリスの研究者による日本の教育についての研究も進み、それらを手にすることも容易となっているけれども、それらの研究を通じて、イギリスの教育をどのようにとらえ直しているかを考察することによって、複眼的に日本の教育を考えることが可能となる。

#### ABSTRACTS

## Looking back on Teacher Education through a Japan-UK Comparison

--what has emerged, what has changed, and what was missed-

Takano Kazuko\*

This paper looks back on the author's comparative research into teacher education in Japan and the UK, reflecting on what has emerged, what has changed, and what was previously overlooked. It examines how the professional and academic of equality assurance in English teacher education have been institutionally differentiated, and considers what may suggest for teacher training in Japan. The paper also explains the implications of concurrent and consecutive models of teacher education, emphasizing the temporal dimensions of teacher formation, and the potential values of Japan's concurrent approach. Furthermore, it highlights the importance of examining teacher education from a gender perspective. Through this reflective enquiry, the paper identifies both un-explored areas and new directions for futher research.

\*Professor Emeritus, Meiji University, Tokyo

# The Actual Situation of Dance Education in Japan and Other Countries

Murakami Suter, Kyoko

The Japanese have been winning international ballet competitions for many years, and Japan is now one of the most enthusiastic dancing nations. The actual situation of dance education in Japan, however, is nt how Europeans might imagine. There are no proper dance institutions or "Ballet School" as would be imagined. In fact, although it is considered "imported high culture" status, ballet still struggles to break away from the hobby status. This is a small introduction to dance education that has been on the front line by an author, observing education at some of the top ballet schools over the last 40 years. Historically ballet thrived in places with financial power starting from Italy followed by Scandinavia, France, Englansd, and America. Japan is no exception to this pattern. Starting in the 70s, Japan exported ballet talents across the world, nailing the top position in the ballet world during the strong '80s financial bubble economy. Nowadays, ballet is well settled in Japanese culture, though the unique dance education system remains unknown to many. Hopefully, this introduction to dance education in Japan serves as "food for thought" on how non-

academic education subjects can be approached, and students interested in these areas supported.

\*Ballet Pianist ...

### Teacher's Role in the Relationship between School and Social Education

Uesugi Takamichi\*

In Japan social education means out-of-school adult and youth education. Just after World War II, the idea of community school was introduced and enhanced community education plans based on the integration of school and social education. As the central government has regulated the school curricula since 1958, the distance between school and social education became wide. On the other hand, schools were recommended to use social education facilities for youth so that pupils could be disciplined by staying in the countryside. In practice a lot of social education directors are ex-teachers. Recently the government is trying to transfer club activities as extra-curriculum to social education in order to decrease teacher's works. As many adults learn at evening middle schools, their teachers should learn not only pedagogy but also andragogy.

\*Professor Emeritus, Kyoto University